

印度學佛教學研究

第二十八卷第一號

[通卷第 55 號]

昭和 54 年 12 月

日本印度學佛教學會



印度學佛教學研究

第二十八卷 第一號

立正大學における
第三十回學術大會紀要（一）

昭和54年12月

日本印度學佛教學會

立正大學
PDG

印度學佛教學研究

第二十八卷 第二號

立正大學における
第三十回學術大會紀要（二）

昭和55年3月

日本印度學佛教學會

資料
研究
紀要
PDG

目次

蓮華生と蓮華座	塚本啓祥	一
サンスクリットの発音	中村元	二〇
知行併合説 (sannuccaya-vāda)	村上真完	六
インドの女神信仰——七人の女神	斎藤昭俊	三
詩人アニースに就て	鈴木木	三七
ブッダにおける冥想の原点	玉城康四郎	三
初期仏教の「これがあるとき、かれがある」	三枝充恵	三八
江西における馬祖とその門下——年次考——	鈴木哲雄	三九
摩訶止観と南宗禪の關係について	風間敏夫	五二
鉄眉三巴掌の急逝にまつわる疑惑	長谷部幽溪	五
本覚思想と神道理論	田村芳朗	六二
円珍撰に擬する『法華玄義略要』一卷について	池田魯參	六九
伝戒伝法考(一)	秋重義治	七五
悉曇略記の作者について	清田寂雲	八三
日本唯識研究——他教学とのかわり——	太田久紀	八六
父幼老の追院の経緯について	守屋茂	九四
『歎異抄』の「御物語」について	細川行信	一〇〇
道元における平安、奈良仏教観	東隆	一〇六
道元とハイデガーにおける「死」について——比較哲學的研究——	笠井貞	一四

『一遍聖絵』研究上生じたる問題点について	岡本貞雄	一〇〇
貞慶と弟子良算	保井秀孝	一〇三
選択について	山本充朗	一〇四
隆寛と親鸞の思想的交渉——本願論を中心として——	田代俊孝	一〇六
「教行信証」における空性の問題	菊村紀彦	一〇六
真宗における行信の一考察——行信論の展開とその問題——	深川宣暢	一〇〇
三願転入についての一考察	清岡隆文	一〇三
真宗声明に於ける民間信仰的要素	播磨照浩	一〇五
弁道話の一考察	木下純一	一〇六
日蓮聖人における釈尊観の一考察——特に本師の開顕について——	高橋俊隆	一〇六
「本門自誓受戒」について	小野文瑠	一〇八
日蓮教学における三大秘法について(二)——特に本妙日臨以後——	本田栄秀	一〇九
Sriva ㄥ Sruc	土山泰弘	一〇四
Rasavadalanikāra	寺内徹	一〇六
中期印度アリアン語における両数形について	山崎守	一〇六
ブラシャスタパーダの似因説	野澤正信	一〇五
Jiāri と Nāgārjuna	白崎顯成	一〇五
原始仏教聖典における定型句について	佐藤義博	一〇五
僧祇律考 I	佐々木理信	一〇五
Mūlamadhyamaṅka-vṛti-prajñāpradīpa についで	村田孝仁	一〇五
歓喜地における発菩提心についての一考察	林賢司	一〇五
『瑜伽師地論』における心所説の一考察	清水海隆	一〇五
蓮華三昧経の成立をめぐる	水上文義	一〇五
Mañjuśrīmūlakalpa 成立史の一断面	山下博司	一〇六

唯仏与仏……………矢野庄八郎……………一六

經典における実存性……………別所衣子……………一七

吉蔵撰『法華統略』と『法華論疏』との撰述順序について……………菅野博史……………一七

『維摩經玄疏』をめぐる二、三の問題……………大島啓禎……………一八

『永嘉集』に見られる天台教学の影響……………仙石景章……………一八

京都大学図書館蔵明宗記について……………中條道昭……………一九

源清の教学について……………末廣照純……………二〇

『観念法門』再考……………成瀬隆純……………二一

『仁王經疏』間の学説の異同（一）……………木村邦和……………二二

牛頭宗における一考察……………木南広峰……………二二

高麗八関会現象（其一）……………梁銀容……………二二

大乘起信論研究——新羅元曉の大乘起信論疏を中心として——……………李平来……………二二

元曉の浄土思想に於ける声聞觀……………康東均……………二三

覺訓の寂年について……………吳光燦……………二四

維摩經義疏の法身説について……………渡部孝順……………二五

『時衆宗茶毘記』について……………梅谷繁樹……………二六

法華經訓読と為為章——為字訓について——……………田島毓堂……………二七

中世和歌集における叡山仏教……………渡辺守順……………二八

増上寺本『浄土宗寺院由緒書』について……………宇高良哲……………二九

阿弥陀三諦説をめぐる……………末木文美士……………三〇

親鸞教学と大乘菩薩道——宗教倫理的考察——……………菊藤明道……………三一

『教行信証』行信兩卷の見方……………五十嵐大策……………三二

親鸞における疑蓋无難について（二）……………紅樗英顕……………三三

道元禪における悟りの構造 序説……………杉尾玄有……………三三

『正法眼藏隨聞記』私考——その6——	田中敬信	三九
『永平広録』における上堂について	伊藤秀憲	四三
日蓮教学に影響せる「五時八教」について	林真芳	四九
日蓮聖人の三益論	庵谷行亨	五三
万治法難と本行寺日逞門流	中村孝也	五五
習合思想から見た憲法十七条	藤田清	六〇
求道惠尋の『円頓戒聞書』について	窪田哲正	六四
『真禪融心義』の写本について	中尾良信	六七
『律苑行事問辨』の基礎知識	川口高風	七〇
妙好人妙性伝の成立過程	朝枝善照	七四
東阜心越と日本の禪者達——独庵玄光の場合——	永井政之	七八
宗統復古史上における独菴師の位置	大谷哲夫	八三
近世日本梵語学史の研究——阿満得聞——	小島通正	八六
自我と自己	吉原瑩覚	九〇
心理学的知見よりみた「悟り」と精神分析における「治療」との比較的考察	佐藤彰顕	九三
過去四仏について	竹本寿光	九七
四諦・八正道の理論面の根底	土屋好重	一〇〇
Uṣakajālanikāraの研究	上杉宣明	一〇三
アッタサーリニーの業論と修行道	田中教照	一〇六
『八千頌』における菩提心の一考察	丹治昭義	一一二
華嚴経に於ける如来の三業について（一）	中村薫	一六
『金光明経』の仏身観と真言密教	加藤精一	三九
十住毘婆沙論考（九）	藤谷大圓	三四
十能作と二十能作——初期唯識論書を中心として——	舟橋尚哉	三七

アビダルマディーパにおける三世実有論

「三世実有」の原文について

大正藏經印度撰述部における還俗

南北朝隋唐仏敎史の統計的資料

慧遠の著作における『勝鬘義記』撰述の前後関係考

法界観門について

華嚴敎学における無礙と空(二)

「頓悟要門」と「六祖壇經」の關係について

天台智顗の仏性説

諸法無諍三昧法門と大集經

變成男子説の一側面

夢中見仏について

洪州宗について——真福寺文庫所藏の『裴休拾遺問』と『六祖壇經』の紹介に因んで——

北峰宗印の敎学とその背景

台湾の寺廟について(一)

辻直四郎博士告別式の弔辞

文部大臣
日本印度学仏
敎学会理事長

内藤誉三郎・日本学士院長
宮本正尊・門弟代表
和達清夫・東京大学総長
原 実

第三十回學術大会記事

会則・役員名簿

執筆者紹介

第三十一回學術大会開催予告

日本學術會議第十二期會員選舉について

吉元信行	田端哲哉	松田真道	春日礼智	鶴見良道	吉津宜英	増田英男	長嶋孝行	若杉見龍	坂本廣博	龍村龍平	本部圓静	石井修道	大松博典	岡田栄照
三三	三七	三二	三四	三七	三〇	三五	三九	三六	三六	三九	三七	三七	三二	三六

三九

九・八・三三・二四八

三六五

四八

『Nayatrāyapradīpa』について	磯田 照文	四二
般若心経梵本の解釈について	白石 真道	四七
断境説の根本典籍について	西岡 祖秀	四三
敦煌出土西蔵文禪宗文献の研究 (3)	冲本 克己	四七
摩訶衍禪師と頓門	原 田 覺	四三
<i>bhoga-nimitta</i> 考	袴 谷 憲昭	四三
<i>Samathadeva</i> の俱舍論註——根品(1)——	本 庄 良文	四二
アシヨーカ王のラグマーン碑文	久 保 田 周	四六
<i>Sārasaṅgaha</i> の異本について	野々 目 了	四九
クッダカニカーヤのオリジナル考	渡 辺 文 麿	四五
<i>Kumārila</i> の <i>bhāvanā</i> 説について (1)	黒 田 泰 司	四六
<i>Apūrva</i> 覚え書 (三) —— <i>apūrva</i> と <i>ātman</i> ——	針 貝 邦 生	四三
<i>Dharmakīrti</i> 以後の <i>Apoha</i> 論の展開—— <i>Dharmottara</i> の場合——	赤 松 明 彦	四六
詩人ミラーラージュとその特質	片 岡 弘 次	四〇
ヒンディー語のイデオロム——フレイムチャンド文学のイデオロムとヒンディー地域特有の表現——	土 井 久 弥	四七
Some Names in Pan Chou San Mei Ching	Asao Iwamatsu	四二
On the Tattāgata-Garba-Dharma-Paryāya	Gishin Tokiwa	四六
THE APOHA THEORY OF DIGNĀGA	Shoryu Katsura	四三
The Satyadvaya theory of the Madhyamakāvatārabhāṣya	Shiro Matsumoto	四六
SAKALAJAGADVIDHĀTRĀṆUMĀNAM (I) —The Proof of the God Śiva by		
<i>Bhāsarvajña</i>	Toshiko Kimura	四〇
Causerie Vyākaraṇique (V): <i>*paravra siddham*</i> contrairement à 8. 2. 1	Yutaka Ojihara	四〇

目次

宝性論の注釈について——Vairocanaśāstra の Tippani——	中村瑞隆	一
ブラサンナバダーの要語説明	本多惠	九
梵網經における四衆の意義	竹田暢典	二三
大徳クマールラータの年代	加藤純章	二六
三昧耶戒について——インド・チベットの真言密教の場合——	高田仁覺	三五
大乘起信論の「起信」について——維摩經と起信論——	橋本芳契	三三
近代スリランカにおける仏教復興運動——K. Wachissara による		
V. Saranankara 研究の紹介	前田惠学	四〇
ヨーガの語義	今西順吉	四四
清代仏教者の研究活動——注釈類を通して——	河村孝照	四七
時代風潮としての仏教思想と最澄	白土わか	五三
証空における神祇の問題	浅井成海	五九
日蓮聖人の仏性論の基盤	渡辺宝陽	六五
日蓮聖人の仏身論の特徴	浅井円道	七三
峨山和尚『山雲海月』と五位思想	石附勝龍	七五
曼殊院藏『西方懺法』本について	奈良弘元	八〇
六勝寺成立の意義	平岡定海	八五

近世における百姓——町人の日用仏教	古田紹欽	一〇〇
法相唯識の観法としての唯識観	上田晃圓	一〇〇
般若の円頓戒について	中西随功	一〇二
親鸞教義に於ける信心の智慧に対する一試論	中野康	一〇四
鎌倉時代の神仏関係——北野天神縁起を中心にして——	今堀太逸	一〇六
日蓮聖人の本尊に関する一考察	小野兼弘	一〇八
『本因妙抄』にみる興門教学の思想背景について	高橋謙祐	一一〇
月舟宗胡と三河松雲院について	成河峰雄	一一三
貞崇伝小考	本岡幹隆	一二四
富山壳薬と修験者について	根井	一二六
京都四条門流の展開に関する一考察——妙顯寺と山陽地方の法華宗——	糸久宝賢	一二八
禪と福祉	池田豊人	一三〇
初期仏典にみる is-sattama について	真柄和人	一三三
「彼岸道品」に於ける一考察	羽矢辰夫	一三四
『第一義宝函』における縁起解釈	松田慎也	一三六
シビジャータカについて	町田順文	一三八
原始仏教教団の拡大について	熊谷進	一四〇
Nāgārjuna における二諦とその諸問題 (1)	斉藤明	一四三
中論第二十四章第六偈をめぐって	巖城孝憲	一四四
中論仏護註の立場	小山一行	一四六
『俱舍論』における有為の四相について	泉	一四八
須弥山の構造について——その垂直面からの考察——	春日井真英	一五〇
菩薩地所説の anulomikopāya について——三性三無性説との関連において——	松田和信	一五三
『瑜伽論声聞地』における戒について	末木康弘	一五四

『Idog-pa』について.....	小野田俊蔵.....一四
Stobs-bcu dpal bdes-gñen の不動決択と名づくる第二十品.....	宮崎啓作.....一四
東洋文庫所蔵・写本チベット訳『八千頌般若經』について.....	川合務.....一五
『聖仏隨念』(P. 3964) の諸問題——Sadhanaṃālā に関連して——.....	吉崎一美.....一五
『涅槃經』における「二の問題——淨影寺慧遠と吉藏における仏性の理解——.....	藤井教公.....一五
天台大師智顗の通教.....	小松賢壽.....一五
吉藏の「非有非空中道」について.....	池田宗讓.....一六
法蔵の華嚴三性説について.....	赤尾栄慶.....一六
『入楞伽經』宋訳の「各別種性」について.....	清水要晃.....一六
十二因縁觀と三種止觀.....	野本覚成.....一六
敦煌本四法經論釈について.....	前田至成.....一六
Āśvayujī——シリニヤ祭式研究Ⅱ——.....	高橋明.....一六
Saṃkhyā 派における pramāṇa 論.....	中井本秀.....一七
ニヤーヤ・ヴァイシシェシカ学派における実体の知覚条件について.....	丸井浩.....一七
Sureśvara における Bhedaḥhedavāda 批判.....	道林信郎.....一七
Ādiśeṣa の Paramārthasāra の研究.....	平岡昇.....一七
スリランカにおける民間信仰.....	神谷信明.....一七
カピールの「中」(madhi) について.....	小林圓照.....一八
ヨーガスートラ第四章の一考察.....	樗尾慈覚.....一八
中觀派の菩提心.....	八力広喜.....一九
原始仏教の縁起觀と解脱涅槃.....	山本啓量.....一九
大智度論の女性觀.....	永田瑞.....二〇
瑜伽論における法について.....	小沢憲珠.....二〇
不定法 (anīyātā dharmāḥ) の概念——『俱舍論』作者の意図——.....	池田練太郎.....二七

小煩惱地法考	西村実則	二三
路心と施設	玉井威	二六
法華經方便品偈頌「過去仏章」考	荻谷定彦	二九
仁王經にみる大乘菩薩道と社会福祉	森永松信	三三
『大阿弥陀經』訳者に関する一仮説	丘山新	三七
観心略要集の観心念仏について	福原蓮月	三一
一師印証の主張と展開(三)——独庵玄光について——	中山成二	三四
慈覺大師円仁の修道論	木内堯央	三七
日本中古天台文献の考察(五)——切紙相伝について——	花野充昭	四三
峨山和尚『山雲海月』について	石川力山	四六
竺道生の実相義について	小林正美	五一
唐初の禪觀について——『維孔目』の記述にみる智儼の説について——	小林實玄	五七
知礼教学における『十義書』成立の意義(二)——智円との論争——	鈴木宜邦	六一
観音經疏と章安	多田孝文	六四
天台における『大般涅槃經後分』の註釈について	佐々木章格	六八
五悔について	福原隆善	七一
天台相即論の特質	大野栄人	七五
歴代三宝紀と統高僧伝——訳経者の伝記について——	大内文雄	八一
涇川水泉寺出土「涇州大雲寺舍利石函」の銘文について	金子寛哉	八六
細字法華經の諸問題(三)	有賀要延	九〇
『鳴道集説』の一考察	桂華淳祥	九四
智儼の如来蔵思想	石井公成	九七
「瑜伽論記」唯識論者考——特に遠法師と融法師の断結をめぐって——	吉田道興	一〇一
菩薩戒本持犯要記について	木村宣彰	一〇五

涼州の仏教——とくに仏教の伝播の实情を中心として……………佐藤心岳……………三〇

伝翕と荊溪について……………多田孝正……………三四

元曉の教判資料に現われた吉藏との関係について……………金昌奭……………三八

虚堂智愚の頌古・代別編纂をめぐって……………佐藤秀孝……………三二

方言義私記について……………伊藤隆寿……………三四

梵字勃嚕唵 Bhrum 信仰の研究……………斎藤彦松……………三九

一遍聖の名号観(三)——法身仏について……………石岡信一……………三三

鎌倉仏教における慈善救済思想について——一遍と時衆教団を中心に……………長島尚道……………三七

親鸞在世時に於ける洛都の儒林について……………村石恵照……………四一

真宗における行信の問題——信樂峻庵教授の所説を縁として……………堤玄立……………四五

親鸞の三つの偈文……………石原斌夫……………五〇

日蓮教学における教相の一問題……………北川前肇……………五三

『正法眼蔵弁註』の引用について……………鈴木祐孝……………五六

永平辨道話流通考(続)……………遠藤孝次郎……………六二

積善院有雅について——聖護院調査中間報告……………浅田正博……………六五

仏教受容形態としての中世唱導芸能……………西崎專一……………六九

協教社の僧侶利用論について(続)……………三宅守常……………七三

会則・役員名簿……………八六五

執筆者紹介……………二四・三・九・七二

寄稿されなかつた諸氏の発表題目……………九二・三〇・三九・三七・三三・三七六

Sulbasūtra と Ganitasāstra の関係——正方形と円の相互変換……………矢野道雄……………八九五

Samkhyakarika 第七偈をめぐって……………神子上恵生……………九〇三

Yuktidipika の研究(三)……………茂木秀淳……………九〇七

Nyāya 学派における tarka の語義……………山上證道……………九二

Uddyotakara の hetvābhāsa	石 飛 道 子	九五
Ātmasiddhi の Prakaraṇapañcika の ātman 論	石 飛 貞 典	九六
Pāli Vinaya の なわの 阿含經	阿 部 慈 園	九四
Paññāsa-jātaka 中の Sudhana-jātaka の こと	田 辺 和 子	九四〇
Uddānavarga 諸本と雜阿含經、別訳雜阿含經、中阿含經の部派帰属	榎 本 文 雄	九三三
法華經第一章覚え書	三 友 量 順	九二九
ウイグル訳『俱舍論頌註』一葉	百 濟 康 義	九四四
Madhyamakaratnapradīpa の こと	江 島 惠 教	九三一
antaraśloka の こと	御 牧 克 己	九二五
The Double Structure of <i>Dharmadharm</i> (Realm of Reality) and the Meaning of <i>Sokushin</i> (即身)	Shinichi Tsuda	九二四
<i>Abhaya-bhava</i>	Akiko Osaki	九二六
SAMYOGAPRTHAKTVANYĀYA—as a basis of the theory of <i>mokṣa</i> —	Hiruo Kurata	九二四
PRESENT STATE OF THE MO-KAU-KU CAVE TEMPLES AT TUN-HUANG	Taishun Mibu and Yuhkei Hirai	九二七

JOURNAL OF INDIAN AND BUDDHIST STUDIES

(INDO-GAKU BUKKYŌ-GAKU KENKYŪ)

Volume XXVIII Number 1

CONTENTS

On the Origins and Development of <i>aupapādukaḥ padme</i> Keishō Tsukamoto, Prof., Risshō University.....	1
The Pronunciation of Sanskrit Syllables Hajime Nakamura, Director, The Eastern Institute	10
On <i>jñāna-karma-samuccaya-vāda</i> Shinkan Murakami, Assoc. Prof., Tōhoku University	16
On the Worship of Seven Goddesses in Indian Villages Akitoshi Saitō, Prof., Taishō University.....	22
On the Poet Anīs Takeshi Suzuki, Prof., Tōkyō University of Foreign Studies.....	27
The Starting-point of Meditation in the Case of Buddha Kōshirō Tamaki, Prof., Nihon University	32
<i>imasmim sati idaṃ hoti</i> in Early Buddhism Mitsuyoshi Saigusa, Prof., Tsukuba University.....	38
On the Chronology of Mazu and his Disciples Tetsuo Suzuki, Assoc. Prof., Aichigakuin University.....	45
On the Relationship between the <i>Ma-hē-chih-kuan</i> and the Southern School of Zen Buddhism Toshio Kazama, Prof., Hōsei University.....	51
Doubts in Connection with the Sudden Death of the Zen Master Tei-mei-san-ba-zhang Yūkei Hasebe, Prof., Aichigakuin University	56
The Philosophy of Original Enlightenment and the Theory of Shintoism Yoshirō Tamura, Prof., Tōkyō University.....	61
A Study of the <i>Hokkegengi-ryakuyō</i> by Enchin Rosan Ikeda, Assoc. Prof., Komazawa University	69
Studies on the Initiation to Buddhist Precepts and Dharma (1) Yoshiharu Akishige, Prof., Komazawa University	75
On the Author of the <i>Shittan-ryakki</i> Jakuun Kiyota, Prof., Eizan College.....	83

A Study of the <i>Vijñaptimātrata</i> Thought in Japan	
Kyūki Ōta, Prof., Komazawa Women's Junior College	88
On the circumstances of the Eviction of Fuyō-rōran	
Shigeru Moriya, Prof., Ryūkoku University	94
On <i>on-monogatari</i> in the <i>Tannishō</i>	
Gyōshin Hosokawa, Prof., Ōtani University	100
Dōgen's View of Buddhism during the Nara and Heian Periods	
Ryūshin Azuma, Prof., Komazawa Women's Junior College	108
Dōgen and Heidegger on "Death"—A Study in Comparative Philosophy	
Tadashi Kasai, Prof., Gunma University	114
Some Problems encountered in the Study of <i>Ippen-hijiri-e</i>	
Sadao Okamoto, Graduate Student, Taishō University	120
Jōkei and his Disciple Rōsan	
Shūkō Yasui, Graduate Student, Ōtani University	122
On "Selection"	
Jūrō Yamamoto, High School Instructor	124
Ideological Exchanges between Ryūkan and Shinran	
Shunkō Tashiro, Graduate Student, Ōtani University	126
On <i>sanyata</i> in the <i>Kyōgyōshinshō</i>	
Norihiko Kikumura, Director, Research Centre of Buddhist	
Thought	128
On Practice and Faith in Shin Buddhism	
Nobuhiro Fukagawa, Graduate Student, Ōtani University	130
A Study on <i>sangan-tennyū</i>	
Ryūbun Kiyooka, Graduate Student, Ryūkoku University	132
On the Elements of Popular Belief found in the <i>shōmyō</i> of the Shin Sect	
Shōkō Harima, Buddhist Priest	134
A Study of the <i>Bendōwa</i>	
Junichi Kinoshita, Buddhist Priest	136
Nichiren's Views on the Buddha, especially in relation to the	
16th Chapter of the <i>Miao-fu-lien-hua-ching</i>	
Shunryū Takahashi, Graduate Student, Risshō University.....	138
On <i>Honmon-jisei-jukai</i>	
Bunkō Ono, Lecturer, Risshō University	140
On the Three Holiest Doctrines in Nichiren Buddhism—especially	
in the Period after Honmyō Nichiren	
Eishū Honda, High School Instructor	142
<i>sruva</i> and <i>sruc</i>	
Yasuhiro Tsuchiyama, Graduate Student, Hokkaido University	144